

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
点検・評価項目(1)	4-1-1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
	教育目標と学位授与方針との整合性
	修得すべき学習成果の明示
点検・評価項目(2)	4-1-2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
点検・評価項目(3)	4-1-3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(4)	4-1-4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-1-1	<p>文学部は学部の「理念・目的」に基づき、以下のように学位授与方針（ディプロマポリシー）を定めている。</p> <p>文学部は、人文諸科学に関する学識を修めることを通し、広い識見と深い洞察力をもち、人間の生き方やあり方を考究し、多様な現代社会ならびに国際社会の諸問題に対応できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）</p> <p>文学部は、所定の単位を取得し、以下のような能力を備えていると認められる学生に卒業を認定し、学士（日本文学・中国学・英米文学・教育学・書道学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文諸科学に関する学識を修め、人間や世界に対する柔軟な想像力と洞察力を持つことができる。 2. 各学科で学んだそれぞれの専門性を生かし、社会において真摯に課題に取り組み、解決しようと努力することができる。 3. 国際社会に対する広い識見をもとに、周囲と力を合わせ、未来を創造していく過程に参加することができる。 <p>日本文学科は日本文学に関する学識を修め、多様な現代社会に対応できる能力を有する人材の養成を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文学・文化に関する十分な学識を修め、人間や世界に対する的確な洞察力や豊かな想像力を持つことができる。 2. 日本文学科で修得した専門性を活かし、多様で複雑な現代社会において、真摯かつ柔軟に課題に取り組み、その解決に向けて努力することができる。 3. 国際社会に対する広い知見と深い理解力をもとにして、周囲と適切な人間関係を築きつつ力を合わせ、創造的な未来を切り拓いていく過程に参加することができる。 <p>中国学科は、中国古典学に関する学識を修め、中国文化圏に対する深い洞察力と国際感覚を有する人材の養成を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国学に関する十分な学識を修め、直面する課題・問題を的確に分析・理解・考察・判断・解決に導く能力を修得している。 2. 中国学科で修得した専門性を活かし、一人の自立する人間として自分の見解を的確に表現し、伝達する能力を修得している。 3. 中国学の学識と専門性に基づき、社会の構成員として他者と協調し、地域・世界の発展に貢献できる能力を修得している。 <p>英米文学科は、英語圏の文学・語学・文化に関する学識を修め、国際語としての英語の基盤の上に立った広い見識を持つ人材の養成を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英米文学、英語学、英米文化、英語教育に関する十分な学識を修め、日本国内だけでなく、世界的な視野に立ち、平和な世の中を構築することに貢献できる。 2. 国際社会に対する幅広い知見と深い理解力をもとにして、周囲と円滑な人間関係を築きつつ力を合わせ、創造的な未来を切り開いていく過程に参加することができる。 3. 英米文学科で修得した専門性を活かし、多種多様な世界において、柔軟に課題に取り組み、困難にも立ち向かい、その
-------	--

	<p>解決に向けて努力することができる。</p> <p>教育学科は、教育学に関する学識を修め、教育に関する知識・技能について、理論的実践的に優れた能力を有する人材の養成を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学や心理学や芸術分野などに関する学識・技能を修め、現代日本社会や国際社会における人間の在り方や生き方に広い見識と深い洞察力をもっている。 2. 幼稚園や小・中学校の教員および保育士として、子どもの指導や教科の指導において理論的教養とともに実践的スキルを習得している。 3. 社会人として、他者と共感的に交流することができ、提起される課題の解決のために協同して活動することができる。 <p>書道学科は、書道学に関する学識を修め、書表現および書学に秀でた人材の養成を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 漢字・仮名の文字文化を、周辺の諸領域とともに理解し、現代社会における「書」の文化的役割や機能を推進する能力を身につけている。 2. 芸術表現としての「書」の歴史を踏まえて、高い表現技法と鑑賞する力を修得している。 3. “書学”と“書作”の両面にバランスの取れた基礎力と応用力を修得している。
4-1-2	<p>カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>文学部では、ディプロマ・ポリシーを踏まえて、以下のようなカリキュラム編成を行っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最初に、多様な現代社会に対応できるように、学部・学科を越えた全学共通科目として自然・社会・人文諸科学の各科目を学ぶ。さらに基礎教育科目としての外国語科目・情報処理科目等、また、キャリア・ジェンダー・芸術（創作を含む）といった現代社会において必須とされる諸科目を学び、各専門科目への基礎を築く。 2. 次に、日本文学科・中国学科・英米文学科・教育学科・書道学科の5学科それぞれの基礎科目と専門科目を学ぶ。それらは各学科において体系的にカリキュラムが組まれている。 3. 各学科においては、少人数制のゼミや実践研究における課題に取り組むことによって、資料・情報の分析・読解能力、批評能力、自己表現能力、コミュニケーション能力、創造的実践能力の育成が目指されている。 4. さらに各学科において、卒業論文や卒業制作、研究テーマへの総合的取り組みが、個別的指導のもとに行われる。 <p>日本文学科では、文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、人間の生き方やあり方を考究する総合的な人間学として文学を捉え、多様で複雑な現代社会に対応できるように、自然・社会・人文諸科学を扱う全学共通科目をはじめ、情報処理科目や数多くの外国語科目などを配した上で、日本文学・文化の基本的な知識を深めるための基礎科目や、専門性を高めるための専門科目を4年間の教育課程の中に体系的に位置づけています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次では、基礎演習を柱として、日本文学研究を専攻するための資料・文献の分析・読解といった批評能力を培い、積極的な自己開発能力やコミュニケーション能力、さらには創造的な実践能力などを育成していくための多彩な科目を用意している。 2. 2年次では、日本文学演習を軸に、1年次で修得した知識・技能を、多様な分野や時代を対象とする研究に応用することを通して、それをさらに発展・拡充することができるよう配慮している。 3. 3年次と4年次には、上代から近・現代に及ぶ時代の日本文学の各領域を核として、言語学、比較文学・文化の領域をカバーするゼミが編成され、卒業論文への橋渡しを行い、学生の個性を活かした形での個別的な卒業論文作成の指導を行っている。 <p>このように、日本文学科のカリキュラム編成は、4年間の教育課程を有機的に連携させることで、日本文学・文化に関する専門的な学識を組織的に涵養するとともに、専門領域を越えた幅広い知識・教養を育み、この教育課程を介して、国際社会に対する広い知見と洞察力を持った人材を養成しています。</p> <p>中国学科は、本学創設以来の伝統を継承する学科としての、本学の「建学の精神」および「教育の理念」に基づき、豊かな国際感覚を身につけた日本人として未来に歩みを進めることのできる人材を養成するために、以下の方針でカリキュラムを編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国の文学・哲学・史学の古典文を読解することにより、漢文読解力の向上を図る。 2. 文学、哲学・思想、歴史、書道芸術などを通して、中国人の精神的背景となっている伝統的な文化への理解を深める。 3. 実用的な中国語の能力を高める。 4. 中国文化圏に対する総合的な理解に基づく国際感覚を養う。 5. 中国という鏡に日本を映すことにより、日本・日本語・日本人をより深く理解する。 <p>英米文学科のカリキュラムは、総合的な英語力を修め、英語圏の文学・文化・言語・歴史・思想などの分野について広く学べるように、下記の方針にしたがってバランス良く整備されています。学生が自分の興味と関心に応じて多岐にわたる科目の中から英米を中心とする文化圏の諸分野を選択し、学習することができます。</p>

1. 英語によるコミュニケーションを強化し、英語の実用的な運用能力を高め、海外でも通用する国際感覚を培う。(Speaking English 等)
2. 英米を中心とする英語圏の文学・歴史・社会への知識を深め、その特徴と多様性の理解を目指す。(英米小説演習、イギリス文化論等)
3. 英語の様々な側面を系統的かつ特殊にとらえ、その成り立ちと機能をより精密に理解できるようにする。(英語学演習等)
4. 現代社会と文学・文化の価値の展開と発展をひも解き、東西文化や多様な民族間の交流への知見を深める。(Culture through English 等)
5. 英語・英語圏文学・文化を通して、自分のおかれた文化環境や自己の再発見を図る。(卒業論文等)

教育学科は、教員志望でなくとも教育学系・心理学系・芸術系などの分野を広く学びたい人に開かれた学科です。教育学科のカリキュラムは、教育学系、心理学系、音楽や工芸の芸術系分野を専門的に深めることができるよう、以下の方針で編成されています。

1. 幼稚園・小学校の教員免許、希望によって中学校教員免許、保育所の保育士資格、また、社会教育主事、図書館司書、博物館の学芸員の資格が取得できるカリキュラムを準備している。また、教育学の学びを専門的に深めると同時に、幼稚園、小学校教師、保育士として理論的実践的能力を持った人材を育成するカリキュラムを用意している。
2. 教員と学生、学生と学生が密接に関わりながら学ぶ機会が数多く用意されている。ゼミや授業の現地研修や地域参加など、学外での社会での社会的学びの場も多い。また、学生が主体的に企画運営する教育学会活動や学科コンサート、学科全体の合宿などの多様な文化活動を通じて協同しながら価値あるものを企画・実践・創造する能力をも育てる。
3. 教育学科では広い教養教育や基礎教育を重視しており、基礎科目として、多数の外国語と体育と情報処理の授業を準備している。また、全学共通の総合教育科目としても 200 を超える幅広い科目を用意して、各学生が自由に選択できるようになっている。

書道学科は、伝統文化である「書」について、学問と制作の両面にわたる専門教員を実施し、広い視野、深い見識、確かな技能を有する人材を養成するため、以下のような特色をもった教育課程を編成・実施します。

1. 書道学科は“書学”と“書作”から成る“書道学”を日本で初めて体系づけた。
2. “書学”は書道史や書論・書跡等を研究対象とする。
3. “書作”は漢字・仮名・漢字仮名交じり・篆刻等の書表現を深化・追求する。
4. “書学”と“書作”の連携を図り、有機的に学習して、“書道学”の基礎力を養成するとともに、さらに深化・発展するための科目を編成している。
5. 美術・美術史や文学・語学等の学際領域も広く視野に入れて、現代社会における書文化の機能とあり方を考察する科目も設定している。

科目区分		日本文	中国	英米文	教育	書道
基礎教育	必修		8	2 2		1 0
	選択	8	4	4	1 2	4
	自由	A	A	A	A	A
専門教育	必修	1 0	2 8	8	2 0	3 4
	選択	4 8	4 4	3 2	4 0	3 8
	自由	B	B	B	B	B
全学共通	必修	2	2	2		
	自由	C	C	C	C (12 以上)	C
自由 (A + B + C)		5 6	3 8	5 6	5 2	3 8
卒業要件		1 2 4				

4-1-3 3つのポリシーは、いずれも『大学案内(クロッシング)』『文学部履修の手引き』に掲載され、大東文化大学ホームページ上でも公開されている。

4-1-4 各学科協議会、文学部教務委員会、文学部主任会議、文学部教授会、の順に検討・協議され、検討や修正が行われる体制になっている。

【効果が上がっている事項】

4-1-1	学位授与方針(ディプロマポリシー)が明確化され、教育指導上、有益になっている。
4-1-2	教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)が明確化され、教育指導上、有益になっている。

4-1-3	三つのポリシーは、常に教育・研究上の規範として、学生の入学時、ガイダンス等で周知され、教員も共に確認し合う形になっている。『大学案内（クロスینگ）』『文学部履修の手引き』に掲載され、大東文化大学ホームページ上でも公開されている。
4-1-4	各学科において、適切に運用されている。年度初めの教務委員会において検証、確認されている。

【改善すべき事項】

4-1-1	
4-1-2	
4-1-3	
4-1-4	

Ⅲ 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

大東文化大学 HP、大学案内（CROSSING）、文学部履修の手引

【2014年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	毎年、年度初めにおける教務委員会において、三つのポリシーの検証を行う。	「卒業生アンケート」「学生満足度調査」及び、教員の意見	→					
14年度 目標	指標を基に、検討する。アドミッションポリシーの検証		→					